

# 有機ワイン、推進へ

山梨県や県内大学、企業など15団体が6月下旬、有機栽培によるワインづくりを支援する団体「山梨オーガニックワイン推進コンソーシアム」を立ち上げた。県産のオーガニックワインの生産や普及、ブランド価値向上を目指し、生産者やワイナリーを支援していく。



オーガニックワインを試飲する参加者  
(甲府市で)

## コンソーシアム立ち上げ 山梨県など15団体 ブドウ生産者ら支援

県内の産業、大学、行政、金融、メディアなど各界が連携し、持続可能な農業を推進する一環で、醸造用ブドウの減農薬、無農薬栽培の支援と普及を推進する目的で設立。

生産者が有機農法で醸造用ブドウを生産できるよう、ブドウに病気が発生する危険性を知らせる情報通信技術(ICT)システムを構築し、ワイナリーへの導入を進める。生産者や醸造家向け勉強会や一般向けのPRイベントも開催していくという。

6月22日に、甲府市内のホテルで設立総会を開いた。設立発起人の長崎幸太郎県知事が「県全体で団体の目的達成に向けて力を合わせていきたい」とあいさつ。規約の可決や役員を選出が行われた他、オーガニックワインの試飲などもあった。

同団体の仲田道弘会長は「外国産オーガニックワインが日本に輸入されるようになった危機感が設立のきっかけ。まずは有機ブドウの栽培を第一目標に取り組み。持続可能なワイン造りを目指していきたい」と話した。

(やまなし)

### 高橋英典さん 2年連続V JA全農さいたま 生乳品質共励会表彰



最優秀賞の高橋さん(右)と運営委員会の時田裕会長(埼玉県深谷市で)

【埼玉】JA全農さいたまは6月中旬、深谷市で「2022年度全農埼玉県本部クーラステーション」運営委

員会総会を開いた。酪農生産者やJA、県関係機関の職員ら35人が出席し、全議案を承認した。22年度生乳品質共励会表彰式も開かれ、最優秀賞に高橋英典さん(JAふかや)が2年連続で輝いた。共励会は全農さいたまの熊谷クーラステーションに生乳を出荷した酪農家90人を対象に開催。今年是最優秀賞の他、優秀賞1人、優良賞13人、敢闘賞20人に賞状と記念品が授与された。

最優秀賞を受賞した

高橋さんは「6月は牛乳月間。より乳質管理を徹底し、引き続き消費者に安心して飲んでもらえる生乳を出荷していきたい」と抱負を述べた。

総会終了後、酪農技術研究会を開催。全農さいたまの三浦道二郎獣医師が「牛舎環境改善の取り組みについて今できること」と題して講演。環境診断機器を活用し、牛舎環境を「見える化」することで、課題や改善点が明確となることを説明した。

### 食農の大切さ 親子で学ぶ 神奈川・JAあつぎ

【神奈川・厚木】JAあつぎは6月上旬、食農教育事業「親子夢未Kidsスクール」を開校した。小学4、6年生と保護者18組36人が参加し、12月までに4回のカリキュラムを実施。食と農の大切さや、地域農業・JAの理解促進を図る。



生産者からニンジンの特徴を教わる参加者(神奈川県厚木市で)

初回は収穫体験と田植え作業を実施。近隣の生産者を訪問し、ダイコン、ニンジンの特徴などを学びながら収穫を行った。田植え作業では、同JA青壮年部員が植え付け方を説明した。

参加した親子は「植えた苗の成長やこれからのカリキュラムを楽しみに、地域農業について一緒に勉強していきたい」と話した。

JAの萩原佐敏常務は「JAならではの貴重な体験を通じ、スクールで出会った仲間との絆も大切にしていきたい」と話した。



【東京】体験や自あるまちる「稻城SE」は京都稻城



【埼玉】鴻巣市の山将之さん(右)が都江東区穀店が

J2選

田植